

脳情報を活用し知覚情報を推定するAI技術等の社会受容性確保に向けた調査研究

- 哲学、社会科学、医事法学等の人文社会系を含む研究者、民間事業者等からなるELSI検討会を開催し、脳情報関連のELSIに関わる国内外の状況等を踏まえ、民間企業が脳AIを活用する際に留意すべき事項等、脳AIの普及に向け、ガイドライン案を取りまとめた。

(1) 脳情報技術解説に関するELSI検討委員会

- 15名の委員、2021年に3回、2022年に5回、全8回の検討会を通して、ガイドラインの指針・論点を議論した。

(2) ガイドラインの素案

- 検討委員会を通して、ガイドラインの素案、それに付随する調査研究報告書について、以下のようにとりまとめた。

脳情報を活用し知覚情報を推定するAI技術の活用ガイドライン（案）

1. はじめに
2. 脳情報を活用し知覚情報を推定するAI技術とは
3. 用語の定義
4. 脳情報を活用し知覚情報を推定するAI技術の活用ガイドライン
 - ガイドライン① 脳情報データの取り扱いにおける合意取得
 - ガイドライン② 脳情報データガバナンスに関する取るべき対応
 - ガイドライン③ 脳情報をモデル化することによる差別・ステイグマ助長リスクへの配慮
 - ガイドライン④ 特定属性のみの脳モデル化、および利用による潜在的なステレオタイプ助長のリスクへの配慮
 - ガイドライン⑤ 特定属性の脳の脆弱性にかかわる配慮
 - ガイドライン⑥ 消費者の思想・価値観に与える影響に関する配慮
 - ガイドライン⑦ 脳情報利用による誇大表現への留意および精度・安全性に関する透明性の確保
 - ガイドライン⑧ 脳情報を利用した事業に関するアクセシビリティへの配慮

2022年度 脳情報を活用し知覚情報を推定するAI技術等の社会受容性確保に向けた調査研究 調査研究報告書(案)

1. 脳情報を利用したAI技術の特有・固有の特徴・課題について
 - 1.1 効果量の増大
 - 1.2 特定の脳情報処理に特徴を持つ個人に効果がある訴求方法の選択
 - 1.3 大規模なパーソナライズ
 - 1.4 無意識への影響
 - 1.5 被験者の内面の表出
 - 1.6 錯覚の利用
 - 1.7 「脳情報」を使うことによる（誤った）期待の醸成
 - 1.8 発達中の技術による不確実性
 - 1.9 高価格
 - 1.10 将来的な脳情報利用による各種予測精度の飛躍的向上
2. 想定ユースケース例と留意点
 - 2.1 コンテンツ評価 ※メディア広告、映像製作等
 - 2.2 製品評価（ヘルスケア産業を除く）※日用品、飲料、自動車、旅行、建築、素材等
 - 2.3 現状では利用が想定されないが、将来的に応用が進む産業のELSIへの配慮
3. 既存の関連指針等
 - 3.1 既存のAI関連の指針
 - 3.2 脳情報利用技術（脳情報利用技術）に関わる指針
 - 3.3 広告に関わる既存の指針
4. 結語